

教育博物館 特集展示

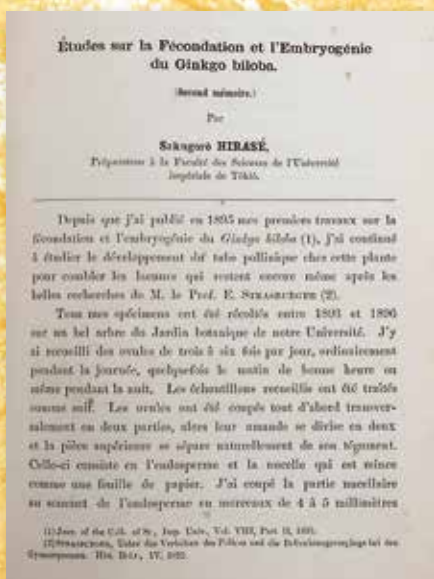
世界を驚かせた明治の大発見！

平瀬作五郎展



平瀬作五郎

一八九六(明治二九年)、世界で初めてイチョウに精子があることを日本人が発見。植物の進化の謎を解く。



フランス語で書かれた論文



第2回帝国学士院恩賜賞賞牌

令和元年 10月4日(金) ~ 11月24日(日)

開館時間: 午前9:00 ~ 午後5:00 (入館は午後4:30まで)

休館日: 月曜日 (祝祭日の場合はその翌日)

入場
無料



福井県教育総合研究所
教育博物館

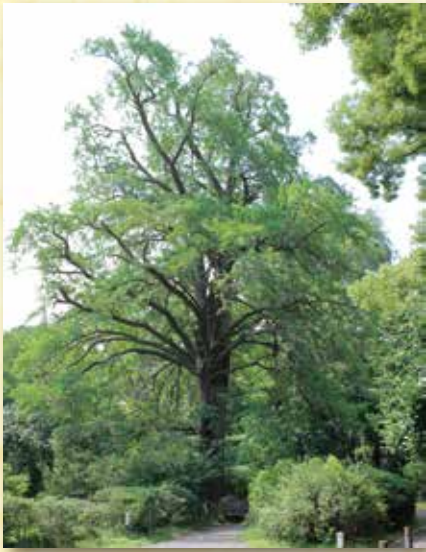
坂井市春江町江留上緑8-1 (旧春江工業高校)
TEL:0776-58-2250 / FAX:0776-58-2251
E-Mail:ed-muse@pref.fukui.lg.jp



教育博物館 特集展示

世界を驚かせた明治の大発見！

平瀬作五郎展



精子発見のイチョウ (東京大学小石川植物園)



用器画法 1882 (明治15)年

イチョウの精子発見は、世界的な大偉業！

みなさんは、福井市出身の平瀬作五郎という人物をご存じですか。平瀬作五郎(1856-1925)は、福井藩中学校を卒業後、図画教師として母校、そして岐阜県で勤務します。1882(明治15)年の著書「用器画法」は、西欧の幾何画法を導入した画期的な教科書として、1940年代まで出版されていました。

その後、帝国大学(現東京大学)の画工、技手として勤務しながら、イチョウの研究を始めます。助手となった平瀬は根気よく観察を続け、1896(明治29)年、イチョウの精子を発見します。これは世界的な大偉業であり、1912(明治45)年、学术界最高賞の帝国学士院恩賜賞が授与されました。

今回の特集展示では、寄贈された恩賜賞賞牌、平瀬の大発見を世界に伝えたフランス語の論文と精巧な図を掲載した「帝国大学理科紀要」や当時の教授三好学氏使用の顕微鏡等を展示し、平瀬作五郎の業績を紹介します。



彦根中で勤務中の平瀬(1901-1908年頃)



精子発見のイチョウから採集した葉・ギンナン



平瀬の描いた手書きの観察図(左(20)は花粉管と中央細胞 右(27)は精細胞(点線の中は核))

【会期】10月4日(金)～11月24日(日)

【開館時間】午前9:00～午後5:00
(入館は午後4:30まで)

【入場料】無料

【休館日】月曜日
(祝祭日の場合はその翌日)



- ◆アクセス
 - <JR> JR春江駅より徒歩約12分(1キロ)
 - <えちぜん鉄道> 鷺塚針原駅より徒歩25分(2キロ)
 - <京福バス> 福井駅「25エンゼルランド線」乗車「教育博物館前」下車 徒歩5分
- ◆駐車場 普通乗用車200台 大型バス用2台
車いす専用駐車場あり



福井県教育総合研究所
教育博物館
坂井市春江町江留上緑8-1 (旧春江工業高校)
TEL:0776-58-2250 / FAX:0776-58-2251
E-Mail:ed-muse@pref.fukui.lg.jp